**エンパワーメント情報学プログラム特定課題研究記述に関する研究**（左寄16ゴチ・太字 最大40文字 本文が英文の場合、英日順）

**Study on University of Tsukuba can accurately adapt to a changing academic environment as it undergoes its own dynamic changes by instilling flexibility**

（↑左寄12p Times New Roman・Bold 最大2行。氏名との間を１行あける）

筑　波　太　郎 （←12p） エンパワーメント情報学プログラム　（←↓9p）

TSUKUBA Taro （←12p） Doctoral Program in Empowerment Informatics

指導教員：　知能 推進，機能 強化，工学　修得（システム情報系）（←↓9p）

Supervised by: CHINO Suishin, KINO Kyoka and KOGAKU Shuhtoku (Institute of Systems and Information Engineering)

（1行空ける　　※本文が英文の場合、↑著者・指導教員名を英日の順にする）

This paper explains the format of the Report of Advanced Research on Empowerment Informatics. Standardly, minimum of 8 pages and maximum 24 pages are recommended. If the body text is written in English, English title and English affiliation should come first. The abstract should be provided in English no matter what language is used in the body text. The data and reference may be included in extra appendix if they can not be included in the body text. This paper explains the format of the Report of Advanced Research on Empowerment Informatics. Standardly, minimum of 8 pages and maximum 24 pages are recommended. If the body text is written in English, English title and English affiliation should come first. The abstract should be provided in English no matter what language is used in the body text. The data and reference may be included in extra appendix if they can not be included in the body text. This paper explains the format of the Report of Advanced Research on Empowerment Informatics. Standardly, minimum of 8 pages and maximum 24 pages are recommended. If the body text is written in English, English title and English affiliation should come first. The abstract should be provided in English no matter what language is used in the body text. The data and reference may be included in extra appendix if they can not be included in the body text.

keywords:keyword-1, keyword-2, keyword-3, keyword-4, keyword-5, keyword-6 <5個程度>

（1行空ける）　（10p Times New Roman, 200～300 words）　本文が日本語・英語に係らず要約は英語で記述

**1　序　　論**

執筆要領について述べる。

1.1 用紙

　A4用紙を縦長に使用する。本文は8ページ（表裏で4枚）以上、24ページ以内を標準とする。

1.2 ヘッダ・フッタ

ヘッダの左側には、「筑波大学理工情報生命学術システム情報工学研究群エンパワーメント情報学プログラム特定課題研究」につづけて、合格予定年度・月を括弧書きで記述する。ヘッダの右側には、氏名を記述する。氏名については、見やすくするために適宜空白をいれても差し支えない。

フッタの中央には、ページ番号をハイフンはさんで記述する。

1.3 1ページ目の体裁

 はじめに、特定課題研究のタイトルを日英表記で記述する。ただし本文が英文の場合、英日の順に記述する。

つぎに、氏名・所属学位プログラムと指導教員名・指導教員の所属を日英表記で記述する。氏名・指導教員名については、見やすくするために適宜空白をいれても差し支えない。ただし本文が英文の場合、英日の順に記述する。

1.4 要約・キーワード

特定課題研究の要約を記述する。本文が日本語・英語に係らず要約は英語で記述する。



Figure 1 Sample figure

（10.5pで1行空ける）

Table 1 Sample table

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| A | B | C | D |
| a | b | c | d |
| a | b | c | d |

（10.5pで1行空ける）

1.5 本文

本文は2段組みとし、10.5pで記述する。句読点は、各分野で用いられる記号を使用する。

1.6 図表

論文として印刷に耐えうる品質（解像度）の図表を作成する。図表中、および、キャプションは、原則として英語を使用する。キャプションは、図の下と表の上に挿入する。図番号および表番号は、それぞれ Figure 1、Table 1 のように表記する。横長の図・表の場合は、段抜きで挿入してもよい。

たとえば、Figure 1や Table 1を例として示す。

1.8 数式

数式のサンプルとして、(1) を示す。

 (1)

1.7 参考文献

それぞれの分野の記述法により、十分な数の参考文献を引用する（１）。著者が執筆した特定課題研究に関連する内容の論文等がある場合には、必ず文献として引用する。

1.8 著者紹介

学会誌論文の一般的な著者紹介を例に記述する。

1.9 付録

本文には書ききれないデータ・参考資料などは、付録に収めることができる。付録は、研究室で別途保管する。

**2　Word スタイルファイルについて**

 このサンプルは、筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群エンパワーメント情報学プログラムの特定課題研究を Microsoft Wordで作成するためのテンプレートファイルである。必要に応じて、スタイルを指定して使用してもよい。

**謝　　辞**

　本研究は、・・・深謝する。

**参考文献**

(1) 工学修, “特定課題研究の書き方”, エンパワーメント情報学会論文誌, Vol.1, No.2, , 2014, pp.34-56.

筑　波　太　郎

筑波大学理工情報生命学術院システム情報工学研究群エンパワーメント情報学プログラム所属

----------------------------------------------

・審査後に、再度、特定課題研究のPDFをManabaにアップロードする。

・大学院教務で、全員の特定課題研究をまとめて保管する。

\* Submit your report in PDF format to the Manaba it has been approved.

\* Graduate School Affairs will compile and keep all the approved papers into an archive.